

聖書：使徒言行録16:1-5(P.244) 讃美歌：413 (1,2,4節)

1. 前回のおさらい

- *アンティオケアの衝突 エルサレム教会とアンティオケア教会 ユダヤ人と異邦人 割礼の有無
- *エルサレム会議の結論と、保守派の巻き返しにひよるペトロ (バルナバ) ← パウロの叱責
- *パウロの孤立 → 独自路線へ (異邦人伝道=世界宣教)

2. 第2回伝道旅行 (使徒言行録16:1-18:22)

- *小アジア(ガラテヤ)→ フィリピ → テサロニケ → アテネ → コリント → エフェソ → エルサレム
- *後にパウロが手紙を書く宛先の教会 初代教会の世界宣教の拠点

3. バルナバとの別離

- *マルコと呼ばれるヨハネをめぐる論争 (使徒 15:37-40)
12:12 出獄したペトロの頼った先 13:5 パウロとバルナバの助手 13:13 エルサレムに帰ってしまう
この顛末に関する評価の違い パウロ=マルコを認めず バルナバ=マルコを認める → 対立・別々の道
- *その後のマルコ → バルナバと共にキプロスへ (15:39) マルコによる福音書の著者??

4. 第2回伝道旅行への出発

- *気になる記述 同行者・テモテへの割礼 → 「その地方に住むユダヤ人の手前…」 (テトス=ガラテヤ2:3)
- *著者・ルカの思い違い? → そうとも言い切れない状況 ルカも一時的に同行していた?
- *「彼らは(16:6)」から「わたしたちは(16:10~)」という主語の変化
「わたしたち資料」16:10-16, 20:5-15, 21:1-18, 27:1-37, 28.1-16 「愛する医者ルカ」(コロサイ4:14)
- *アンティオケアでの主義主張とは異なる何らかの事情で割礼を施したパウロ ← 同行者として見ていた??

5. 聖霊による伝道の禁止

- *不思議な記述 16:6, 7 = 伝道・宣教を禁じる聖霊
- *「使徒行伝」は「聖霊行伝」 人知を超えた神の力=聖霊による、伝道・宣教の展開

6. 第2回伝道旅行のあらすじ

- *フィリピで シラスと共に投獄 (16:16-40)
- *テサロニケで ユダヤ人による暴動(17:1-15)
- *アテネで ギリシャ人と宗教論争 (17:16-34)
- *コリントで 運命的な出会い 「アクラとプリスキラ」 (18:1~)

7. パウロの自給伝道

- *どうやって生活を? (食っていた?) → 手に職を持っていた テント造り=天幕職人
- *パウロが自給していたことを物語る箇所 使徒20:34 Iテサロニケ2:9b IIテサロニケ3:8
- *手に職を持ち、自給でいたパウロ → だから孤立しても活動継続 対立しても付度せず自説を貫く

8. 質疑と応答

※ 11月は10日(水)に開催予定です。